

令和5年度（2023年度） 第1回函館市社会教育委員の会議 会議録

1 日 時 令和5年（2023年）7月27日（木）14時～15時45分

2 場 所 函館市役所8階第1会議室

3 内 容

(1) 報告

ア 令和5年度（2023年度）社会教育事業概要について

イ 第43回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告

(2) その他

情報交換

「各自の生涯学習や社会教育に関する活動等について」

4 出席委員 11名

池田孝道委員長，外崎紅馬副委員長，若林慎也委員，中田和子委員
花松均委員，西澤勝郎委員，鈴木利治委員，佐々木香委員，佐藤裕
美委員，横手義孝委員，風間美智子委員

5 欠席委員 4名

高橋めぐみ委員，善本至委員，川原田浩康委員，佐々木幸夏委員

6 事務局出席者 7名

川村真一生涯学習部長，宮田至生涯学習部次長，長濱未亜生涯学
習文化課長，加藤秀紀スポーツ推進課長，木村元子文化財課長，熊
谷正博物館長，葛西暁子生涯学習文化課主査

7 発言要旨

葛西暁子生涯
学習文化課主
査

本日は、何かとご多用のところ、ご参集いただきまして誠にありが
とうございます。

定刻になりましたので、只今から、令和5年度（2023年度）第1回
函館市社会教育委員の会議を開会いたします。

私は函館市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習文化課主査の葛西
と申します。どうぞ、よろしく願いたします。

本日の会議は午後4時頃の終了を予定しております。

ここからは、着席にて失礼いたします。

まず、はじめに、委員の出席状況についてご報告いたします。

本日の委員の出席状況でございますが、委員15名中11名のご出
席をいただいております。函館市社会教育委員の会議規則第5条第1項の
規定に定める過半数に達しておりますことから、会議が成立しており

ますことをご報告いたします。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。
事前にお送りしたものといたしまして、

- ・次第
- ・資料1 社会教育委員について
- ・資料2 令和5年度(2023年度)社会教育事業概要の3点ございます。

また、本日は次の資料を机上天にて配布しております。

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・令和5年度 市立函館博物館企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」
- ・デジタルコンテンツで縄文体験！
- ・函館市社会学級のご案内
- ・令和5年度社会学級講演会「私たちにもできる国際交流」の6点でございます。

事前送付資料をお持ちでない方、机上配付資料に不足がある方はお知らせください。

資料はよろしいでしょうか。

それでは、委員の紹介に進みます。

前回の会議から委員に変更がありましたので、新しい委員の皆さまをご紹介申し上げます。

函館市小学校長会から選出されております函館市立高丘小学校長の若林 慎也（わかばやし しんや）委員です。

函館市中学校長会から選出されております函館市立旭岡中学校長の中田 和子（なかた かずこ）委員です。

函館市文化団体協議会から選出されております函館市文化団体協議会副会長の西澤 勝郎（にしざわ かつろう）委員です。

本日は欠席されておりますが、日本放送協会函館放送局専任部長の善本 至（よしもと いたる）委員、北海道新聞函館支社報道部長の川原田 浩康（かわはらだ ひろやす）委員が、新たに委員として委嘱されておりますので、ご報告いたします。

葛西暁子生涯
学習文化課主
査

次に、教育委員会事務局職員をご紹介します。

生涯学習部長の 川村 真一（かわむら しんいち）でございます。
生涯学習部次長の 宮田 至（みやた いたる）でございます。
生涯学習文化課長の 長濱 未亜（ながはま みあ）でございます。
スポーツ振興課長の 加藤 秀紀（かとう ひでき）でございます。
文化財課長の 木村 元子（きむら もとこ）でございます。
博物館長の 熊谷 正（くまが い ただし）でございます。

議事に入ります前に、生涯学習文化課長より、函館市社会教育委員の会議について説明がございます。

では、函館市社会教育委員の会議について簡単に説明いたします。
（資料1に基づき、社会教育委員について説明）

それでは、次第の4に移りますが、ここからは池田委員長に議事進行をお願いしたいと思います。
池田委員長よろしく申し上げます。

池田孝道委員
長

それでは、次第4、報告に入らせていただきます。
まず、報告（1）の「令和5年度（2023年度）社会教育事業概要について」を事務局より説明願います。

【次の順に、資料に基づいて説明】

- ・ 生涯学習文化課
- ・ スポーツ振興課
- ・ 文化財課
- ・ 博物館
- ・ 各教育事務所（生涯学習文化課長）

池田孝道委員
長

ここまでの説明に関して何かございますでしょうか。

風間美智子委
員

はい。

池田孝道委員
長

それでは、風間委員よろしく申し上げます。

風間美智子委員

先日博物館へ行き、企画展の「外国人が見たみなとまち HAKODATE」を拝観させていただきました。ありがとうございます。

北海道らしい温かさを感じる企画展ではありましたが、少しあっさりとしている感じがしましたので、もう少しインパクトがあればもっと良かったのではないかと感じています。

例えば、企画展を見ることで、私は、「昔の函館の家は強風で屋根が飛ばされないようにするために、屋根の上に大きな漬物石を乗せていたり、火災時に火の粉をけすために屋根の上に桶や箒・纏などを立てかけてあったこと」を学びましたが、この風景の実物大の模型などがあれば、来館者、特に子どもにもっとインパクトを与えることができたのではないかと思います。

また、外国人と日本人と一緒に描かれた版画などもあったのですが、見ている人にもっと臨場感を感じてもらい、楽しんでもらうためには、当時の外国人および日本人のそれぞれの背丈が分かる実物大の人形などを置いたり、もしくは最近ではコスプレを楽しむ人もいるようなので、人形に洋服や着物を着せても良かったのかもしれないと思います。

加えて、当時使われていた望遠鏡や天体関係の物なども、実物が置いていけば、来館した小学生や中学生は、「おもしろい」と感じてくれたのではないかと思います。

昨年の企画展で見たアイヌの方の絵が鮮やかできれいであり、とてもインパクトを感じたものですから、今後も、来館者に具体的に訴えかけてくるような、インパクトのある企画展にしていてもらいたいと期待しているところです。

池田孝道委員長

それでは事務局の方で回答をお願いしたいと思います。

熊谷正博物館長

貴重なご意見をありがとうございます。

昨年の展示は、なかなか普段展示をすることがない掛け軸などを展示し、大変好評をいただいたところです。今年は去年とは趣を変え、函館の町並みにスポットを当てた企画展にいたしました。

只今いただいたご意見については、今後の企画展において企画段階から参考にさせていただき、「子ども達を楽しめるような分かりやすくインパクトのある展示」という観点に十分配慮しながら、企画の方を進めて参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

池田孝道委員長

他に何かございますか。よろしいでしょうか。

では、報告（1）を終わりといたします。

ここで、スポーツ振興課長，文化財課長，博物館長は退席いたします。

では、続きまして報告（２）の「第４３回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告」に移ります。

この研修会は、私と葛西主査が参加いたしました。

本研修会は北海道社会教育委員連絡協議会が主催する研修会で、北海道内の社会教育委員長や社会教育関係者を対象に７月に開催されており、今回は北海道内１１２市町村、計１８７名の社会教育委員や行政関係者が参加しております。

内容といたしましては、北海道大学名誉教授であり、石狩市社会教育委員長であります木村委員長から「対話を生み出し、つながりをつくる社会教育と社会教育委員の役割」と題しましてご講演をいただいたほか、「安心・安全なまちづくりと社会教育委員のかかわり」をテーマに、厚真町社会教育委員の山路氏とNPO法人 ezorock コーディネーター（社会教育士）水谷氏との間で対談が行われました。

研修二日目には、初日の研修を踏まえ、「対話」について話し合うグループワークを行っております。

初日に行われた「対談」ですが、私は北海道胆振東部地震を経験された厚真町社会教育委員の山路氏のお話がとても印象に残りました。

山路氏は、「お祭りをしっかりやっているところは災害に強い」ということをおっしゃっておりました。

どういう意味だろうと思い、私なりに考えてみたのですが、お祭りには地域の人たちが集まってくるので、地域の人たちが顔見知りになる機会になりますし、お祭りの時には地域の人が共同で食事を作るので、その経験が災害時の炊き出しに通じており、災害時に役に立ったのだらうと感じました。

今、震度５ぐらいの非常に大きな地震が色々な所でどんどん起こってきていますが、現在は近所づきあいも希薄で、ご近所に住む方の顔も知らないというところがありますので、今こそ、地域の繋がりを強くし、災害時に速やかに対応できる関係性づくりの構築が必要なのだと思います。

次に翌日のグループワークですが、「安全・安心なまちづくりと社会教育委員の関わり」をテーマとしてグループに分かれて対話を行いました。私のグループでは、少々テーマから外れて「そもそも社会教育委員ってなんだろうね」というお話が大半でした。社会教育委員は地域と行政を繋げる役割ではありますが、あまり認知されておらず、民生委員のように地域に入っていくことが難しいという意見が出ていたほか、「何処から何処までが社会教育なのか、カバーする範囲があまりにも広すぎて地域の方にも理解してもらいにくい部分があるのではないか」というご意見もありました。

社会教育委員になって６年経ちますが、いつも社会教育関係の文化会、グループワークに参加すると、どのようなテーマの研修会であっ

池田孝道委員長

でも、必ず、「そもそも社会教育とは何か。社会教育委員とは何か。」という話が出てきます。先日、渡島総合振興局の社会教育主事である柴田氏から、社会教育についてお話をいただいて、勉強などもさせてもらっておりますが、道内各地から研修に参加された皆さまと話しておりますと、みなさんが思われているところは一緒なのだと感じて、これからも続いていくテーマなのだろうと思った次第です。

私からは以上です。

次に、葛西主査から報告をお願いいたします。

葛西暁子生涯学習文化課主査

委員長から対談とグループワークについて報告いただきましたので、私からは基調講演について簡単にお話をさせていただきたいと思います。

講師の先生は北海道大学名誉教授の木村先生でした。先生は社会教育の専門家であり、ご自身も社会、石狩市の社会教育委員長を務められております。

講演でお話されていた内容ですが、大きく3点ございました。

1点目は対話の大切さです。

世界では紛争が起き、新型コロナウイルス感染症のまん延などを発端として人々の分断が起こるなど、私たちが住むまちの安心安全が脅かされるような時代となっておりますが、価値観の相違は時として争いを生み、人々の分断を生むため、人々が自分の属するコミュニティにおいて安心して生きていくためには、異なる価値観を持つものを攻撃するのではなく、「対話」を通して相手を知り、理解しようとしていくことが大切である、というお話をされていました。

2点目は地域づくりをする上での大事なポイントについてです。いくつかご紹介申し上げます。

- ・一人一人が自主的に行動し、地域や学校と関わろうとすること
(行政サービスに頼るだけでなく、地域の住民が地域を作るという意識を持つことが大切)
- ・支えられる者から支え合う者になること
(人に支えられる自分であっても良い。ただ与えられるだけではなく、自分にできることがあれば与えていく、ということをしていくことが大事)
- ・地域に関心を持つことによって、地域づくりに携わろうという意識も芽生えるので、研修の中で、自分達の地域の新しい魅力や改善点等を見つける、というワークを行っても良いのではないかと。

葛西暁子生涯
学習文化課主
査

・意見が異なる人とも同じ社会で共に平和に生きていくためには、多様な価値観を認め合うことが必要。「こうあるべき」という思い込みを排除し、対話を通して、相手を知り理解し尊重することで、互いに協力しあうおうという意識が芽生え、コミュニティの運営が機能するようになる。

3点目は、社会教育委員が常時抱えている「社会教育委員の役割とは何か、具体的にどのように活動すれば良いのか。」という悩みに対し次のような回答をいただきました。

「社会教育委員としてどのように地域と関わっていけば良いのか、ということでお答えすると、地域を実際に歩いてみて、地域課題を見つけて課題解決に繋がるような行動をしていく、もしくは、現在ある社会教育活動（コミュニティスクール、高齢者の居場所づくり、子ども食堂）などに参加する、ということがあるが、体力的な問題や、お仕事の都合上、そこまで地域活動に関われないという現状もあるかと思ので、社会教育委員の皆さまには、社会教育に関する研修に参加して社会教育者としての資質を高めていただき、研修で得た知識を地域に還元することをご提案したい。

例えば、今回の研修において、皆さまに「対話」の大切さを学んでいただいたが、この学びを皆さまが属するコミュニティに持ち帰っていただき、コミュニティの中で、「対話」を実践していただいたり、コミュニティの方に「対話」のやり方を伝えることができれば、なお良いと思う。」

※対話とは「異なる価値観を持った人同士の価値のすり合わせ」のこと（研修資料より抜粋）

講師の先生より、研修を受けて自身の資質向上に努め、その知識を社会教育委員の皆さまのコミュニティに還元するというご提案をいただいたところでございますので、行政といたしましても、社会教育委員の皆さまが参加できるような研修会があれば、お知らせしていきたいと考えているところでございます。

報告は以上でございます。
よろしく願いいたします。

池田孝道委員
長

ありがとうございます。
只今、研修会についての報告をさせていただきましたが、ここまでの説明で何かみなさんからご意見などございませんでしょうか。

風間美智子委員

はい。

池田孝道委員長

風間委員，よろしくお願ひします。

風間美智子委員

「社会教育委員の役割とは何か，どのように活動していけば良いのか」，ということですが，社会教育委員としての立場を考えるのではなく，地域に住んでいる一人の大人として，どのような考えをもち，どのような生き方をするか，というあり方の問題なのかと考えています。

私は，全世代の皆さまに社会教育に関わっていきたくて思っており，自分も色々な分野で活動しておりますが，皆さまそれぞれが，自分ができることは何かを考え，自分ができることを出し合っていけば，世界は良くなっていくのだと思います。

新型コロナウイルス感染症のまん延を発端として，様々な問題が世界的に色々出てきたと思いますが，私は，結局，最後に人を救えるのは人なのだ，と考えています。全ての文明・文化・科学などは，人が幸せになるために使われるものであり，それぞれの人が支え合う必要があります。私は，一人一人が自分の住む世界に責任を持ち，大人が子どもに見本を見せることができているまちであってほしいという思い，日々，自分もそうありたいと思い，様々な社会教育活動を行っているところです。以上です。

池田孝道委員

ありがとうございます。

非常に貴重なご意見だったと思います。社会教育委員の研修会に出る方々というのは，私のような社会教育委員の委員長だとか，行政の方が殆どですが，社会教育というものを非常に難しく考えているところがあると思います。先ほども申し上げましたが，研修会では，最終的に「社会教育委員とは何をすれば良いのか」と言うところにたどり着いてしまいます。やはり，何処かで自分で線引きをして，やるべき事を決めないと何か落ち着かないというところがあるのだと思います。

風間委員のお話を聞きまして，もっと根本的なところで考える必要があるのではないかと感じました。ありがとうございます。

池田孝道委員

他に何かございますか。

他にないようでしたら，報告（2）を終わりといたします。

それでは，その他（1）情報交換「各自の生涯学習や社会教育に関する活動等について」に入らせていただきます。

各委員の皆さまには，お一人3分～5分程度で，委員が日頃，生涯学習や社会教育活動のほか，今，ご自身で組んでいるもの，取り組まれ

池田孝道委員
長

てきたことでも構いませんので、お話をいただきたいと思います。

お互いの活動を知ること、委員同士の繋がりの一助としていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは最初の発表者ですが、初めに私からお話をさせていただき、その次は、若林委員から座席の順に発表をお願いいたします。

西澤委員まで発表が終わりましたら、鈴木委員が続いてください。

それでは、発表させていただきます。

私はNPO法人函館市青年サークル協議会に所属し、理事を務めております。函館市青年センターという社会教育施設があるのですが、函館市青年サークル協議会は函館市青年センターの指定管理を受託し管理運営を行っており、私はこちらに務めて約12年半ぐらであり、その内、6年半ほどはセンター長を務めております。

今年度に入ってから、今まで新型コロナウイルス感染症のまん延で開催出来なかった七夕祭りを実施することができまして、100名近い子ども達が参加してくれました。また9月3日には青年センターを利用する団体が実行委員を結成して作り上げる一大イベントの青年センターフェスティバル2023を開催する運びとなりました。2020年から2022年までは、よさこい・ダンス・吹奏楽部などの動画を撮影してYouTubeにアップして発表の機会を提供する、というやり方でしたが、今回は対面で開催するため、大いに盛り上がるのではないかと感じております。

私は現在、このように、函館市社会教育委員の会議の委員長を恐縮ながら務めさせていただいておりますが、持ち回りで渡島社会教育委員連絡協議会の会長と北海道社会教育委員連絡協議会の理事を務めさせていただいております。これらの役割を通して、様々な研修会を経験させていただくと共に、北海道は広いので、普段はなかなかお会いすることが出来ない稚内の方やオホーツクの方ですとか、各地の社会教育委員の方とお話する機会があり、その中で情報共有を行っていくことで知識の向上とスキルアップにも繋がっていると感じております。

また最後になりますが、昨年度より北日吉小学校の中に入っている共同学童保育所父母会の会長も務めさせていただいております。今は、NPO法人が学童を運営することが多いですが、ここは数少ない父母会運営の学童保育所になっておりまして、父母を中心とした実行委員会を立ち上げ、催しの企画なども行っております。

今年度については丁度、7月30日の日曜日に親子サマーキャンプ、9月にはバザーがありますので、地域の方との交流を行う予定もあります。学童保育はどうしても学校と近いイメージではあるのですが、放課後の活動という面では、やはり社会教育と言っても良いのではないかと感じます。正直色々な役職を持つと大変な部分はあるのですが、それ以上に得られるものもありますので、引き続き、様々な活動を通

池田孝道委員長	<p>して、社会教育委員としての資質を高めていきたいと考えております。以上です。</p> <p>では、次に若林委員お願いします。</p>
若林慎也委員	<p>高丘小学校長の若林と申します。自身の取組みについてですが、私は自分のスキルアップを図るためにも、行政が主催の研修だけでなく、民間主催の研修も積極的に受けるなど、自己啓発に取り組んでおります。コロナ禍には民間が行っている無料のオンラインセミナーなども色々開かれておりましたので、よく参加させていただきました。</p> <p>例えば、脳の仕組みに関する講義なども受けました。</p> <p>私は職場の教員とコミュニケーションを図る際に、この講義で得た知識を活用させていただいておりますので、この講義は大変、参考になったと思っております。</p> <p>このほか、学校経営、授業の改善、ICP活用をどのように行っていくのか、などの研修にも参加しております。</p> <p>社会教育の定義の範囲は広く、ボランティアも社会教育に含まれると思うのですが、私は10年前から命を繋ぐボランティアとして献血も行っているところでございます。</p> <p>以上です。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
池田孝道委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、中田委員お願いいたします。</p>
中田和子委員	<p>はい。旭岡中学校長の中田と申します。私自身は今回、委員になったばかりでまだ勉強中の身ですので、旭岡中学校の取組みということでご紹介させていただきます。本校においては、地域連携は教育活動の大きな柱の一つとなっております。例えば具体的な例として、今年の7月3日、しばらくの間、新型コロナウイルス感染症の影響で活動できていなかったクリーンデイ作戦という、年に1度の清掃ボランティアに参加して地域の清掃を行いました。本校のほか、校区内の小学校や函館養護学校、町会の方と一緒に活動いたしました。中学生と小学生は1つの班になり、合計10個グループとなり清掃したのですが、1つ1つの班に、地域の方も入っていただきましたので、地域の方と共に活動できた一日となりました。</p> <p>来月8月5日～6日には、これも久しぶりに復活したのですが、町会の夏祭りが地域の校区内で開催されます。生徒も参加することから、本校の職員も、安全・見回りを兼ねて参加させていただく予定であります。</p> <p>このほか、本校の地域の特徴としては児童館があります。旭岡児童館、それから、にじのはなクラブという学童クラブが校区内にあります。旭岡中学校の生徒たちは中学生ではありますが、児童館が大好き</p>

中田和子委員

で、頻繁に児童館にお邪魔して、色々お世話になっております。その代わりといいますか、逆に地域の行事、その児童館のお祭りなどが開催される時には、生徒がボランティアとして参加させていただくなど、非常に良い関係を続けさせていただいております。

また、本校には、リコーダー部があるのですが、お陰様で、3年連続で全国大会に行き、1位を取るという実績をもっております。

そのリコーダー部の演奏も、地域の方からは是非演奏してほしいと依頼を受けることがあり、新型コロナウイルス感染症が流行する前は、色々なところに行って演奏をしておりました。

今年度は、町会の行事や児童館のクリスマス会などで、お声がけいただいておりますので、参加をしたいと思っております。

このように、旭岡中学校は地域との連携を進めているところです。以上です。

よろしく申し上げます。

池田孝道委員
長

ありがとうございます。

続きまして花松委員お願いいたします。

花松均委員

はい。市立函館高校学校長の花松と申します。

社会は全体で支えていくものですので、今後は、学校教育と社会教育の分けなく、社会教育を進めていく時代になっていくのではないかと私は思うのですが、本校におきましても、市立の高校ということで、地域の方と連携して種々のことを進めていかなければならないと考えております。

新型コロナウイルス感染症の流行でしばらく開催できなかった本校の学校祭が、先日、4年ぶりに開催されまして、行燈パレードも、学校外から地域の方が見守る中で実施することができました。

地域の方は、行燈行列の実施を期待してくださっていたようで、4年ぶりに行燈を見た地域の方は、「待っていたんだよ」という喜びの声を生徒達にかけてくださいました。この時、私は、市立函館高等学校が地域の学校として地域の方の期待を受けているほか、地域の方々に支えられているのだと実感いたしました。

この行燈という文化は、以前は道南の色々な学校で行っておりましたが、今、残っているのは本校くらいしかありません。本校の行燈行列も、交通量の多い五稜郭の行啓通りを通過して行きますので、交通整備の関係でも実施するのが大変です。このように、文化や伝統の継承は容易ではありませんが、生徒達のためにも地域の方のためにも、この行燈という文化を残していきたいと思っております。

社会教育との連携といたしましては、我が校には学校設定科目の中に「函館学」というものがあり、講演会、函館学講座、地域探究学習・地域探究学習の3つの単元で構成されております。

地域探究学習・地域探究学習地域では、函館検定を受験したり、色々

花松均委員

な事業所にお願ひし、それぞれの分野を活かした講座を開講していただき、生徒たちは自分たちの興味がある講座を選択して受講したり、あるいは、設定した課題について色々なテーマを設定し、大学や企業に出向いて、それぞれのテーマに沿って、課題解決のための議論をしております。具体的なプレゼンテーションを行う等、高校生として、地域の課題解決に向き合っているため、この経験がいずれ、地域貢献に繋がっていくのではないかと期待しているところです。

以上です。

よろしくお願ひします。

池田孝道委員
長

ありがとうございます。

それでは、外崎委員お願ひいたします。

外崎紅馬委員

北海道教育大学教授の外崎です。

私からは3点ほどお話したいと思います。

まず1点目ですが、私は普段、大学で社会福祉を教えているのですが、地域の朗読サークルの団体から「朗読と社会福祉を結び付けて何か出来ませんか。」という依頼がありました。私は、「朗読の作品を読んでもらって、その作品の内容について社会福祉の観点から読み解いて解説をするということではいかがでしょうか。」と提案をさせていただき、今月7月1日に、『物語で読み解く社会福祉』というタイトルで、市民30～40名を対象に函館市中央図書館で2時間ほど講演をいたしました。

2点目です。私は教育大学附属の函館幼稚園で園長を兼務しておりますので、わりと絵本に触れる機会が多くあります。教育大学の大学生と話しをしている時に、この話を学生にしたところ、「絵本を使って何かできると良いですね。」と言う学生がおりましたので、私はその学生に、「何か考えてごらん。」と答えました。すると、その生徒は、「SDGsと絵本を結び付けて、絵本の内容からSDGsの理解を結び付ける取組みは出来ないでしょうか。」と言うものですから、それではやってみようということになりまして、その話に賛同した計7名の学生は、SDGsの17の目標1つについて、1人1冊、絵本を選出することとなりました。今、目標8まで完成していますので、計56冊を蓄積している状況です。

年度内には17の目標すべて選書し終えるほか、10月くらいからは、SNS等でその情報を順次、公開していく予定となっております。

3点目です。私は最近、野菜中心の生活に変えたところ、体の調子がよくて睡眠の質も上がり、買い置きしているお米5kg3袋が消費されずに余ったままになっていたことから、せっかくですので、このお米を使って、学生にフードバンクに寄付をする体験をさせ、あわせてフードバンクを知らない学生に、フードバンクについても教えようと考えました。

外崎紅馬委員

私はフードバンクに興味を示した学生3人に、米袋を1つずつを預けて、それを持たせてフードバンクへ寄付をしに行き、「フードバンクはここにあるんだよ。」「こうやって寄附するんだよ。」「このお米が小分けにされて子ども食堂へ行ったり、あるいは経済的な事情がある人に配布されるんだよ。」と、実際の体験として学生に現場で教えたところでした。

学生にとりましては、貴重な社会体験になったことと思います。

以上です。

よろしく申し上げます。

池田孝道委員
長

ありがとうございます。

続きまして、西澤委員お願いいたします。

西澤勝郎委員

私は函館市文化団体協議会副会長の西澤と申します。

函館市文化団体協議会は、様々な団体が加盟しており、市民文化の向上を図ることを目的として活動している団体で、その中でも、私が所属しておりますのはぶんだんフレンズという会になります。ぶんだんフレンズは、函館市文化団体協議会に参加活動することを望む個人が加入するための組織で、その活動と目的については、文団協の活動に賛同・寄与し併せて函館の文化に関心を持つ有志の親睦と交流を図ることを骨子としております。

実際の活動としては、市民文化祭に参加するほか、函館市からの委託事業であるアウトリーチ事業の手伝い（講師派遣、学校との調整）を行うなど、コーディネータの役割を担っております。

また、文化芸術活動促進補助金の新設され、函館市文化団体協議会に属する団体に対して補助金が出るとのことで、その準備も進めております。

このほか、これもまた役所の関係ですが、亀田交流プラザの3階の一角を借りまして発表の場を提供させていただいており、そこを利用して書の展示をしておりますが、この次は、美術関係の展示を行う予定であり、1年間通して亀田交流プラザで展示ができるようになると思います。皆さまにぜひご覧いただきたいと思っております。

11月には、文化の日を中心に市民文化祭が開催されますが、函館市文化団体協議会も、舞台部門や展示部門に参加させていただいているほか、2月には、発表の場が少ない個人の方のために、函館市文化団体協議会の加盟団体による展示、舞台発表会である「ぶんだんジョイントステージ&ギャラリー展示」も行っておりますことから、市民の皆さまに活動状況を見ていただけたらと思います。

函館市文化団体協議会といたしましては、小さな場所でも発表の場を提供していただけたらいいところがあれば、積極的に出演させていただいたり、展示をさせていただきたいと思っており、そういう活動を通して市民の皆さまに、少しでも文化に触れていただく機会を持っていた

西澤勝郎委員

できればと思っております。

また、私の団体は高齢化が進んでいることから、活動を繋いでいくためにも、若い方に函館市文化団体協議会に加入したいと思っております。そのような活動をしていきたいと考えております。

以上です。

よろしく申し上げます。

池田孝道委員
長

ありがとうございました。

続きまして、鈴木委員お願いいたします。

鈴木利治委員

こんにちは。函館市スポーツ協会副会長の鈴木です。

私は教員を退職して辞めてから10年目に入りますが、まだ仕事をしております。

西澤委員のお話にもありましたが、高齢化の問題は私も気にしているところでございます。

私は6月23日の函館マラソン大会の次の週に柔道大会のお手伝いに行ったのですが、函館は参加選手が17人、渡島が11名でした。私が教師としての現役時代、五稜中学校に勤務している時は柔道部員が42～43名おりましたので、函館市の選手が17名しかいないというのは驚きです。これは柔道だけではなく他のスポーツでも言える事で、少子化が進んでいるのだと感じます。

私は函館市スポーツ協会だけでなく、色々な団体に属しておりますが、指導者や役員の高齢化が非常に気になっております。自分も高齢者です。「まだ若い、まだ頑張れる」、という感じはするのですが、若い方を育てていき、団体の活動を引き継いでいけるようにしたいと考えているところです。

池田孝道委員
長

はい。ありがとうございます。

佐々木委員お願いいたします。

佐々木香委員

はい。私は函館市女性会議会長の佐々木と申します。

函館市女性会議は今から38年前に、女性の地位を向上と男女共同参画社会を推進する函館市のまちづくりに貢献すること目的として立ち上げられた団体です。私は平成24年度から会長に就任しており、会長に就任した時から『誰ひとり取り残さないまち函館』を目指そうということで色々なことに取り組んでまいりました。

女性大会は函館市女性会議の一番大きなメイン事業になるのですが、こちらの方は今年で52回目の大会を迎えます。この大会では、毎年タイムリーな話題で皆さまに情報提供ができるように講演会を開催しているほか、函館市女性会議の設立30周年記念の時には、初めて映画の上映会（『何を怖れる』）をさせていただきました。

今年もまた皆さまに興味をもっていただけるような題材で大会を開

催する予定になっております。

函館市女性会議は、町のプラットフォーム的な役割を担いたいということで、様々な企業や団体とを繋ぎ合わせるようなまちづくりを目指しています。その一つとして、男女共同参画というものがあります。男女共同参画というと、なかなか一般の方から受け入れられてもらうことが難しいため、男女共同参画の視点で「防災」を伝えることをしております。防災ということになりますと、男女共同参画のことも理解しやすく、受け入れていただくことができますので、私共は、防災のイベントを開催し、その中で男女共同参画の視点が大事であることを伝え続けております。そのような取組みを続けるうちに、色々な企業や団体が防災マルシェに関わってくれるようになり、ネットワークも広がったところです。

しかし、ネットワークが広がったといっても、なかなか障がいのある方達とつながることが難しく、障がいのある方となんとかネットワークをつなぎたいと思い考えましたのが、昨年12月に開催させていただきました「函館コレクション」というファッションショーのイベントになります。

防災のイベントなのに、ファッションショーを行うというところをNHK札幌放送局の方に興味をもっていただき、『#これ防災なんで』というコーナーに取り上げていただき、ファッションショーがなぜ防災なのか、という視点で紹介していただきました。この放送により、道内の沢山の方から色々ご意見やご感想をいただきましたので、この放送をきっかけに、色々な団体の方々とご縁を繋ぐことができたところです。

これからも、防災や福祉、教育、環境、ファッション、観光、平和という様々な分野の方々とつながり合いながら、活動を進めてまいりたいと考えております。

防災の話に戻りますが、実はご縁がありまして、今年、亀田老人大学と高齢者大学の青柳校からそれぞれお声かけいただき、防災の講座を行わせていただきました。120名の方達を前にして防災の話をした中で、私が一番びっくりしたことは、携帯トイレの話をしていただいた時に、「見たことも、売っているところも見たことがなく、どうやって使うのか」という質問が、物凄く沢山寄せられたことです。私は今から12年前から、「携帯トイレは大事ですよ」と伝えてきましたが、実はなかなかまだ伝わってない事に気がつき、また更に力を入れて頑張ってお伝えしていかなければと思った次第です。

今年も防災マルシェが9月30日にまちづくりセンターで開催しますし、函館コレクションも12月3日に開催させていただきますので、ここに集まりの皆さまも是非、見に来ていただければと思います。

以上です。

よろしく申し上げます。

池田孝道委員
長

はい。ありがとうございます。

佐藤裕美委員

続きまして、佐藤委員お願いいたします。

はい。私は公益社団法人函館法人会女性部会理事の佐藤です。

私たちは税金の仕組みを分かりやすく理解してもらうために、「税金ってなんだろう、どうして納めなければいけないのだろう、それはどう使われるのだろう、税金を給料としている人はどんなふう働いているのだろう」など、興味関心をたくさんもってもらえるような教室を行っています。また、税金に関する絵はがきコンクールという税に関する絵を描いていただいて、それを全国的に表彰しております。まちづくりセンターや函館市役所1階のロビーでも展示しておりますので、みなさんにも是非見ていただきたいなと思っております。

このほか、女性部会では「いちごプロジェクト」という使用電力を15%削減する取組みとを、東日本大震災の後から継続して行うなど、社会貢献活動を行っているところです。

以上です。よろしくお願いいたします。

池田孝道委員
長

はい。ありがとうございます。

続きまして、横手委員お願いいたします。

横手義考委員

はい。私は函館市町会連合会東部地区協議会の横手と申します。

東部地区は色々活動があったと思います。

私はたまたま活動に関わることができなかったので、ここで皆さまに何かを報告することができませんが、皆さまからのお話をお聞きでき、色々学ばせていただきました。

ありがとうございます。

以上です。よろしくお願いいたします。

池田孝道委員
長

はい。ありがとうございます。

最後に、風間委員お願いいたします。

風間美智子委員

はい。私は公募委員という立場でございますが、社会学級生連絡協議会会長など、さまざまな社会教育活動をさせていただいております。お手元にチラシが配布されているかと思っております。9月4日に社会学級生が一堂に会して開催される社会学級フェスティバルという大会があり、今回は独立行政法人 国際協力機構北海道センター JICA北海道 国際協力推進員の戸澤里美様に「私たちにもできる国際協力」と題しまして講演を行っていただくことになっております。

コロナ禍で世界中の色々なネットワークが切れた訳ですが、これからは、また、我々も、どんどん外国へと目を向けていかなければならないと思うほか、色々な海外の支援を待っている人達のためにも、海

外の方がどのようなほど困窮しているのかなど、JICAの戸澤様がお話しをしてくださると思います。社会学級生以外でも参加することができますので、どうぞ、皆さまもいらしていただきたいと思います。

私は社会学級のほかにも、保護司として活動しております。

ただいま、函館市役所1階のロビーにおいて、小・中学生が更生保護について書いたポスター展示（保護観察所主催）を行っておりますが、私も保護司として展示のお手伝いをしたところです。

どうぞ皆さんお帰りに寄っていただいて、展示を見た感想などを言っていたいただければと思っております。

このほか、私の活動ではないのですが、先日、青少年育成フォーラムに参加して、青年の主張を聞いておりましたところ、おそらく函館市立戸倉中学校だと思うのですが、生徒さんの主張（意見）が大変立派であり、中学生ではあるけれども大人なのだ、と感心したことがございました。

このように色々なところに参加しておりますと、世代が違う方ともお話する機会もあり、大変楽しいほか、若い方からも学びを得ることができますので、とても有益な時間を過ごせたと思っております。

以前の私は、様々な活動をする人々がつながった方が、互いの学びも深まると思っていたのですが、コロナ禍ではそれは難しいということも経験しましたので、つながらなくても、それぞれが活動していけば良いのではないかと考えるようになりました。

例えば、手を伸ばせば何かがある、という考えを持ち、実施している社会教育事業があれば、自ら参加していくことが大切だと思っております。

もう一つ思うのは、函館の町には色々な社会教育事業やその他のイベント、ワークショップなどもたくさんありますが、その事業等を本当に必要としている人たち（事業の対象者）が参加できているのか、ということが気になっております。

なかなか外に出て各種事業に参加することができない人がいれば、その人たちに近い人たちが、「こういう事業があるよ」と情報提供してあげ、その人たちが参加しやすいように導いていくことも必要なのではないかと私は思います。

最後になりますが、本当に今、社会では様々な事件などがおき、社会不安が深刻化しておりますが、そういう環境で育つ子ども達に何をどう伝えていくのか、ということを考えるのは、次世代に引き継ぐ我々先輩の役目なのだとおもうところではあります。

私もめでたく介護保険被保険者証をもらって高齢者の仲間入りになりましたので、残された時間を考えますと、色々焦ることもあり、このようにして今、お話をさせていただきました。

我々は、本当に先をいく大人として、若い方の鑑になる存在ですから、これからも私は社会教育事業を頑張っていきたいと思っております。

風間美智子委員

以上です。
よろしく申し上げます。

池田孝道委員長

はい。ありがとうございます。
それでは、各委員の発表について、もう少し内容を知りたいですとか、ご質問とか、なんでも構いませんので、何か発言されたい方はいらっしゃいませんか。
社会教育委員の会議は開催回数が多くなく、このように集まることができる機会も少ないため、この貴重な時間に、皆さまにぜひ、何かご発言をいただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。
それでは私が口火を切らせていただいて、いつも通りに佐々木委員にお聞きしたいのですけれども、いつもすみません。
障がい者が出演するファッションショーを昨年度初めて開催された件について、私は会場に伺うことが出来ませんでした。非常に興味深く感じておりまして、イベント開催に至るまでの準備や当日の様子、今後の予定など、ご見解を頂戴できればと思います。

佐々木香委員

女性会議は防災マルシェの活動など「誰ひとり取り残さないまち函館」の実現を掲げる中、日常生活での困難を抱えている人たちとのつながりを深める方法を模索していましたが、なかなか障がい者の方とのつながりができずにいました。そのような折り、道内で車いす利用者のファッションショーが開かれているのを知り、「これだ」と確信し、障がい者のファッションショーを通して、障がい者の方が災害時に取り残されないような仕組みづくりができればと思い、障がい者の方のファッションショーの運営のノウハウを持つ、北海道社会福祉協議会（札幌）の鹿野牧子さんに相談しましたところ、その方の伝手で、障がいがある方を日本で初めてモデルさんに起用してファッションショーを開催された鶴田さんとのつながりを持つことができました。

鶴田さんは、長崎の原爆の日、広島の前爆の日にあわせて、平和ファッションショーを開催しているデザイナーでいらっしゃるので、その方に色々教わりながらモデルの募集もしました。実際に応募してくれた方が19名、その中でモデルに起用された方が10名の方で、オーディションで残念ながら9名の方は選ばれなかったのですが、モデルで選ばれた方達は実際に見た目では障がいはどこにあるのというぐらい普通に見える方達でした。

実は内部障害や発達障害だったり、うつ病を抱えていたり、ご病気で指10本とも無い方などがおりますが、一瞬見ただけでは、障がいがあるとは全然わからないような方達でした。

その方達をモデルとして、ドレスでランウェイを歩いていただく時に、モデルお一人お一人が、何の障がいをお持ちの方が等、アナウンスで紹介させていただきましたが、見た目だけではどこに障がいがあ

るかわかりませんので、会場にいらっしゃった方には、障がい者であることがあまりピンと来られなかったようです。

しかし、その後、モデルに参加された方達に、なぜ応募したのか、ファッションショーに参加してみてどうだったか、ということトークショーでお話いただいた時に、モデルの方たちの話し方が特徴的でしたので、会場に来られた方達もやっと、障がいがある方だと認識できたということでした。

私共がこのファッションショーで目指したのは、一見、障がい者のように見えなくても障がい者である方たちがいて、実は自分の周りにも障がいがあって日常生活に困り事を抱えている方がいるということ、災害時には、周りの方の助けが必要なのだ、ということをお互いに認識していただくことです。

実際に東日本大震災の時に、周囲に要配慮者であることが認知されていなかったことで、援護を受けられずに多くの障がい者の方が亡くなっています。函館市でも、もしも何かあった時に、実は自分の周りに障がいを抱えている方がいるということをお互いに意識していただくことを通じて、地域の力も強くなっていくという気付きをお互いに持っていただきたいと思います、ファッションショーを開催したところです。モデルになった方たちはもちろんですが、家族の方もとても喜んでくださいました。皆さまにいただいた感想の中で一番私が心に残ったのは、「生まれながらにして障がいを抱えて生まれてきた女の子にとっては、花嫁姿を親に見せられるなど、夢にも思っていないことだった。これまでは、町に出るとジロジロと見られて視線が痛かったのを、このファッションショーでドレスをまわってヘアメイクしていただいて、今までと逆の立場で、綺麗な私を見てくださいという立場で皆さまの前を堂々と歩くことができる、そういう機会を与えてくれたことは凄く素晴らしいですね。」と感想をいただいたことでした。

私もそこまで考えが及んでおりませんでした。障がい者の方が皆さまの身近にもいるということをお互に分かっていただきたいと思います、ということと、障がいがある方も、自分が助けて欲しい時に「助けてください。」と言えるような人間関係を築いて置くことがとても大事である、ということをお互いの方に話して、「お互いに助け合えるようなまちにしていきましょうね。」とお話させていただいたところです。

今年第2回目のファッションショーを行うに至っては、インクルージョン（障がい者だからといって分離されることなく、様々なものに参加する機会を平等に得られる環境を目指す）を全面に出していきますので、もっと色々な方に参加していただけるようなファッションショーにしていきたいと思っています。

昨年のファッションショーは車いすの方がいらっしゃらなかったもので、今年は是非、色々な方に参加していただけるように呼びかけをしていきたいと思っています。

池田孝道委員
長

ありがとうございました。

Facebookなどで、当日の写真などを拝見させてもらいましたが、本当に参加された方がすごく良い表情をされていることがとても印象的でした。

元々、防災から始まったイベントということですが、福祉の分野でも、誰かの力になっている、誰かの気持ちを前向きにさせている、という意味で素晴らしいイベントだと、今、お話しを伺って更に感じました。

ぜひ、次の回でも沢山の方を幸せにさせていただければと思います。よろしくお祈りします。

他に皆さまから何かございますか。

なければ、以上でその他（1）は終了といたします。

予定していた内容は以上でございますが、事務局から他に何かございますか。

長濱未亜生涯
学習文化課長

一つご案内させていただきたいのですが、函館市が事務局を務めております渡島社会教育委員連絡協議会が主催する「令和5年度渡島社会教育委員研究集会」は、今のところ11月9日（木）の開催を予定しております。

講師にはコミュニケーションナビゲーターの姉帯（あねたい）先生をお招きし、コミュニケーションに関する演習を行う予定です。

こちらについては渡島管内社会教育委員の皆さまや行政関係者が参加対象となっておりますので、ぜひ、委員の皆さまにもご参加いただければと思っております。

場所は市役所本庁舎、8階大会議室を予定しております（函館国際ホテルに変更）。日程が近くなりましたら、ご案内申し上げますので、よろしくお祈りいたします。

以上でございます。

池田孝道委員
長

渡島社会教育委員研究集会の開催に係るご案内でした。

ただいまの件、よろしいでしょうか。

ほかに皆さま、何かございますか。

なければ、以上で令和5年度（2023年度）第1回函館市社会教育委員の会議を終了いたします。

皆さま、お疲れ様でした。

以上、令和5年度（2023年度）第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 池田 孝道